



## 演劇鑑賞

「劇場で仕事をしているから、休みの日くらいは劇場に行きたくないし、演劇も見たくない」という人も周りにはいますが、自分は勉強も兼ねて、休みの日も面白そうな公演があれば、なるべく観に行くようにしています。観劇中、つい無意識に見てしまう照明の吊り込み。せっかくお金を払って演劇を観に来ているのだから、楽しまなきゃ!と自分に言い聞かせていますが、素晴らし照明を見るたびに、キョロキョロしてしまいます。一緒に観劇している方は、さぞ迷惑なことでしょう。

ちなみに、ロンドンの演劇チケットの相場は、会場とプロダクションのスケールによっても異なりますが、FRINGE劇場で大体£10-20(千5百-2千8百円)、中規模劇場で£15-50(2千-7千円)、大規模劇場で£15-70(2千-1万円)あたりが普通ですので、日本とあまり値段は変わらないのではないのでしょうか。これはあくまでも演劇の基準で、ミュージカルやオペラになると、値段がもっと上がります。劇場によっては、週に一度、払いただけ払う“PayAsYouCan”の日があったり、割引対象で学生、60歳以上、無職、地域の住民などがあつたりします。その他に、立ち見、ランダム席(どこに座れるかは、現地では知らされる)、バック席(舞台から一番遠い席)、死角ありの席の割引もあります。

よく一緒に演劇を観に行く、ロンドンで古きよき友人であるJ君は、素晴らしいバーゲンハンターです。元FRINGE演劇のフリーランスプロデューサーであった彼は、現役の頃から築いてきたネットワークと知識を活かして、いろいろなロンドン公演のチケットを、とても安い値段で手に入れては、「今話題の〇〇公演のチケットが手に入ったから/あの有名な役者が出演しているから一

緒に観に行かない?」と、よく誘ってくれます。どこでどのようにそれらのチケットを手に入れたのか聞くと、まめなしかできない手段だと思いました。

とにかく多数の劇場のメーリングリストに登録する、多数の演劇系メンバーズクラブに登録する、ネットワークで知り合った人を伝ってコンプチケットを得る、Today Tixというアプリを常にチェックする、発売日に安値で購入する、プレビューチケット、当日朝発売のデイシートチケットを購入する、演劇の記事を読みあさるなど、とても根気と時間のいる作業に聞こえますが、それが彼の楽しみようです。

少しミーハーである彼は、ニコール キッドマンが出演した『Photograph 51』や、ジュディー デンチが出演した『Winters Tale』、ドクターフーの主演、デービット テナントが出演した『DON JUAN IN SOHO』などは、もちろん観に行ったそうで、『ロードオブザリング』のガンダルフ役である、イアン マッケランが出演する今夏の一人芝居のチケットも、すでに手に入れたと嬉しそうに話していました。有名人にそこまで興味を示さない自分とは、温度差を感じることもあるようですが、お互いに演劇の楽しさを違う角度からシェアできるので、一緒に観劇することを楽しんでます。演劇好きな友達と公演を観に行けるのは、とても嬉しいことです。プロダクションの裏情報を彼から聞けるのも面白さの一つです。どうしてあの無名だった若い演出家が、ウエストエンドでいきなり有名になったのかや、あのプロダクションはどうして突然、公演打ち切りになったのか、あの演出家が今、面白いことに臨んでいて、どの照明家と組んでいるかなど、プロデューサーの目線からみたプロダクションの裏情報を

聞いていると、まるでスキャンダルあり、ドラマありの芸能週刊誌を読んでいるかのようです。

先日、J君が誘ってくれた Almeida 劇場の『The Treatment』という公演を観に行ってきました。物語自体はそこまで感動的ではなかったのですが、視覚的に、現実からかけ離れていて、奇妙な夢を観ているような、不思議な世界に引き込まれました。とても見応えのある公演です。この公演を面白く見せた要素の大部分は、ニール オースティン氏の照明でした。抽象的で大胆、かつデリケートな色使い、コントラストがはっきりしていてパンチある照明で役者がくっきり浮き上がっていました。非現実的なカラートーンが、その世界では当たり前存在していて、なんの恐れも迷いもなし。公演の1幕目(普通のオフィス内のシーン)の照明が初めに目に飛び込んできた瞬間、私は感心のあまり、思わず「わーおっ!」と声を発してしまいました。我々がもつ、色に対しての違和感、先入観を、一瞬で塗り替え/肯定させ、公演の出だしから終わりの瞬間まで、完全に観客をその非現実的な世界に引き込むことに成功していたのです。流星のニール氏。彼の照明なしでは、あの特殊で奇妙な世界は成立しなかったでしょう。

今年、『HARRY POTTER AND THE CURSED CHILD』公演@Palace劇場で、2度目のオリバーベスト照明デザイン賞を受賞した、ニール氏。その彼が手がけた照明デザインを、Almeidaというあの小さな劇場で、間近に観ることができたのも、J君のお陰です。もつべきものは友達ですね。ハリーポッターの公演も、近々一緒に観に行けたらと願っています!



Almeida劇場



『The Treatment』公演(アーカイブ写真)